

○明治十七年十月六日 兼任雅樂長兼掌典如故 式部省兼典位四位 岩倉 具綱 兼任大臣 大藏省大書記官正六位 佐伯 維新 兼任大臣 大藏省大書記官正六位 目賀田 隆太郎 兼任大臣 大藏省大書記官正六位 野中 準 兼任大臣 大藏省大書記官正六位 香取 新之助 兼任大臣 大藏省大書記官正六位 龜山 貞義 兼任大臣 大藏省大書記官正六位

時事新報

先づ台湾を占領せざるべからず 佛蘭西領提督「クレベール」ハ一箇月計り媽祖島に於て開日月チ消シタル後漸ク其運動ヲ始メ先づ台湾ノ難關ヲ取リ又淡水チモ乘取リテコレヨリ更ニ南方ニ進軍シテ台湾府ヲ取リ打狗ヲ取リ全島ヲ擧ゲテ佛蘭西共和國ノ所領トスルノ後ニアラザレバ再び休息スルコトナカバベキ事ノ順序ニ於テ最モ明白ナルガ如ク

ノ仕事ヲ見出シテコレヲ勉メ後來大功ヲ立ツルノ基礎ナラシムルベカラズ是則チ今固ク「クレベール」提督ガ臺灣占領ニ從事セタル所以ナラン

佛清事々件

○佛軍の方略 佛蘭西艦隊の大舉して臺灣に向ヒクルベール提督ハ既に基隆ヲ占領シテスレバ基隆ヲ淡水を攻撃して今頃ハ既ニ占領せし事ならん然るに佛軍今則チ目的は臺灣全島ヲ占領し更に價金ヲ申出さんとすれば方略ありと見ル東京

佛蘭西公使館へ達したる電報なりとく聞得たる所之左に如し 佛蘭西臺灣ヲ占領シタル後清政府ニ向テ更ニ價金ヲ要求シ清政府之ヲ肯セザレバ更ニ本國ヨリ四五萬ノ海陸兵ヲ發派シ清國本州ノ攻撃ニ着手スル等コトヲ其準備モ整ヒ居ルリ云々

佛蘭西の援兵

○佛蘭西の援兵 九月五日巴里發の報ハ水師提督クレベール氏ハ若し清國が速ニ佛蘭西の申分に従ふるに於ては陸軍を用ふるを必要とするに付速に本國ヨリ數發ありたる旨ヲ本國政府ヲ上申しつゝ之ヲ依リ佛蘭西政府一鎮一兵を東洋ニ派遣すべしと見ゆ又クレベール氏ハ大砲の彈藥乏乏したるを以て援兵の外に本國ヨリ彈藥の到着するを待居る旨を政府ニ申越したる由とあり

○消兵兵の小艇 佛蘭西艦隊の砲撃シタル石炭二十噸を積メルリ云々

佛蘭西の援兵

○佛蘭西の援兵 九月五日巴里發の報ハ水師提督クレベール氏ハ若し清國が速ニ佛蘭西の申分に従ふるに於ては陸軍を用ふるを必要とするに付速に本國ヨリ數發ありたる旨ヲ本國政府ヲ上申しつゝ之ヲ依リ佛蘭西政府一鎮一兵を東洋ニ派遣すべしと見ゆ又クレベール氏ハ大砲の彈藥乏乏したるを以て援兵の外に本國ヨリ彈藥の到着するを待居る旨を政府ニ申越したる由とあり